# 郡山町川田堂園の供養塔群

【所　在　地】鹿児島市山町川田 1238
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 38 年６月 17 日

郡山は，中世，満家院と称し，島津荘寄郡であった。そのうち川田・西俣など数か名は比志島氏の領有するところであった。比志島氏の祖栄尊は，３男盛佐（資）に川田名を与えたので，盛佐は川田氏を名乗り，代々川田城に居住した。この堂園の供養塔群は，川田の中ほどの山すそに位置する川田・比志島両家の墓所にある。高さ３ m に及ぶ壮大な２基の層塔を中心に数基の五輪塔及び宝塔（比志島・川田両氏の祖，頼重・栄尊・盛資の名を刻むものがある），角石塔婆，笠塔婆，数十基に及ぶ小五輪塔がある。この中でも，縦 120cm，横 33cm の角石に永仁５（1297）年の刻文あるものが注目され，この供養塔群は，盛佐が父栄尊をとむらったものと推定される。鎌倉期から室町期に及ぶ史跡として，関係史料（『比志島文書』，『川田文書』）・川田城跡等とあわせて，中世のこの地方の歴史を解明するうえで，また，中世の地方豪族の信仰・思想を解明するうえからも重要である。

なお，川田氏の墓は川田川をはさんだ対岸の旧大川寺（廃寺）にもあり，そこには室町期から近世に至る川田氏歴代の墓が残っている。